

岡山大学ユネスコチェア「持続可能な開発のための研究と教育」設置

岡山では、故谷口澄夫岡山大学元学長を代表とする「岡山貢献トピア構想」のもとで、地域ぐるみで国際貢献を推進する運動があり、その成果として岡山県国際貢献条例が制定され、2005年には「国連持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)」の地域拠点に世界で最初に認定されました。その中で岡山大学は、大学院環境学研究科が中心となり、地域において持続可能な社会を創造するための人材を育成することを目標として、国連教育科学文化機関（ユネスコ）にユネスコチェア（ユネスコ講座）の申請を行い、2007年4月に認証されました。ユネスコチェアプログラムは世界で約600ありますが、環境部門ではアジアで初めてのものです。

岡山大学は、このユネスコ講座を基盤として、各教育機関や地方行政、市民団体、諸外国の大学と連携し、世界的なレベルでの持続可能社会をかたち創るための総合的な教育を目指しています。

岡山・瀬戸内地域において、持続可能な社会を形成するための教育機関における「学校教育」とそれを補完する公民館等の「社会教育」の連携を岡山大学が行い、ESDに関する啓発活動を推進します。一方、岡山地域と海外の情報を融合させ、日本とアジア・太平洋地域、アフリカ等の発展途上国との大学間協定を基礎に、ESDの理解と実施のための教育システムの構築を行うため、3年間で以下の活動を行う予定です。

1. 国連機関等の国際機関で活躍できる国際環境専門家の育成
2. 地域での持続可能社会の実現を推進するための専門家の育成
3. 持続可能な社会構築に貢献するための環境学教育カリキュラムの作成
4. 大学間ネットワークを通じ開発途上国の環境の専門家に知識・技術の移転を行う

